

ねぎ

○来年に向けた準備を!!

今年の状況は…

- ・春先温暖に推移 ⇒ 病害虫が越冬・早期発生
- ・5月の干ばつ ⇒ 活着不良・生育停滞
- ・本格的な梅雨入り ⇒ さび・べと・小菌核病・葉枯病・黒斑病多発
- ・7/下～8/上の干ばつ ⇒ ネギアザミウマの大発生
- ・稲刈り以降の気温低下 ⇒ 早期からの黄色斑紋病斑発生、べと・さび病の再発

今年も天候不順に泣かされた年でした。今年状況を踏まえ、次年度に向けた作付計画が重要となります。干ばつに対応するため、灌水できる圃場の選択。逆に豪雨・冠水対策として排水対策をとってください。

初期の病害虫発生に対する耕種防除として、残渣付近・越冬したねぎ付近へ植えない、連作はしない等の配慮が必要です。取り遅れしないために、一度に多量の枚数を播種しないよう、ムリのない作付け計画を組むようにしてください。

また、部会員向けに種子・資材・農薬の予約注文書を配布していますので、病害虫対策を考慮しながら注文ください。

山うど

○本格化する作業について

茎葉の刈り取り（11月中旬～）

・低温に遭遇し、茎葉が十分黄化して茎が空洞化した頃に茎葉の刈り取り作業を行いましょう。枯れ上がりが遅いほど休眠覚醒までに時間を要し、株の充実が悪く腐敗につながります。肥料設計等の見直しを検討して下さい。

株の掘り取り（11月下旬～12月中旬）

・掘り取り時に土を落とし、霜害に遭わないようその日の内に搬出。搬出後は、ジベレリンの効果を上げるため、根株の土を洗い流した後、株が白くなる程度乾かしましょう。

掘り取った株の管理

・十分な低温が確保できなければ休眠不足となり、収穫までの日数がかかったり、不揃いの要因となり収量減少に繋がってしまうため注意しましょう。

・掘り取った株は、低温確保のためハウス内に置かず、外に野積みしブルーシート等で覆って適温を保ち、氷点下にならないよう保管しましょう。特に、1月出荷用の株については必ず実施しましょう。

・保管する際、茎部が腐敗している株は除去しましょう。また、品種が混ざらないよう品種区分し、野ネズミや霜害・凍害に遭わないよう注意しましょう。

品種ごとの休眠の深さと休眠打破までの日数（加温開始時期）の目安

睡眠の深さ ↓	浅	・紫芽の白：12月10日～(加温開始時期)
	・群豊白：12月15日～(加温開始時期)	
	・愛知坊主：12月25日～(加温開始時期)	
	深	・東武鯉玉：12月30日～(加温開始時期)

伏せ込み床の準備

・融雪水がハウス内に入ってこないよう万全な排水対策を行いましょう。

きゃべつ

○今後の作業について

加工きゃべつを栽培されている生産者は、雪が降る前に収穫し、腐らないよう保存して下さい。

11月中に、31年度の種子・苗の部会員用注文書が配布になりますので、次年度の経営計画をしっかりと立てながら、注文書を記入し提出して下さい。また、次年度の新規作付者も募集しています。苗の注文が12月までですので、きゃべつの作付を希望される方は早めにお知らせ下さい。

アスパラガス

○掘り取り後の温度管理に注意

雪が降る前に、株の掘り取りを行いましょう。

掘り取った株は、1週間程度ブルーシートで覆って野積みし、氷点下にならないよう保管してください。

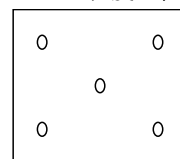
露地アスパラガスの場合は、地上部を刈り取って処分して下さい。

土壌診断

○適正な施肥をするために

水稻、野菜が終了した圃場で次年度のために土壌診断を行い、土壌の状況を把握するようにしましょう。土壌診断の目的は、ほ場の栄養分（PH、窒素、リン酸、加里など）を把握し、その分析結果に基づいて、次年度の施肥量を決め、適正な施肥を行うことです。

土壌の採取方法は、地表面3cm程度剥ぎ取り、その下5～10cm程度垂直に掘り取ります。



圃場1箇所につき、左の5箇所を混ぜます。その土を風乾した後で、氏名、圃場番号等わかるようにして、各営農センター又は、能代市農業技術センター（52-2247）へ持参して下さい。

問い合わせ先

能代55-0777、二ツ井73-5193、藤里79-1644

肥料・農薬の注文書の提出

- ・年内配達希望の方→11/21（水）必着
- ・注文書の締切り→12/21（金）必着
- ・JA各部会の肥料・農薬→12/21（金）必着